

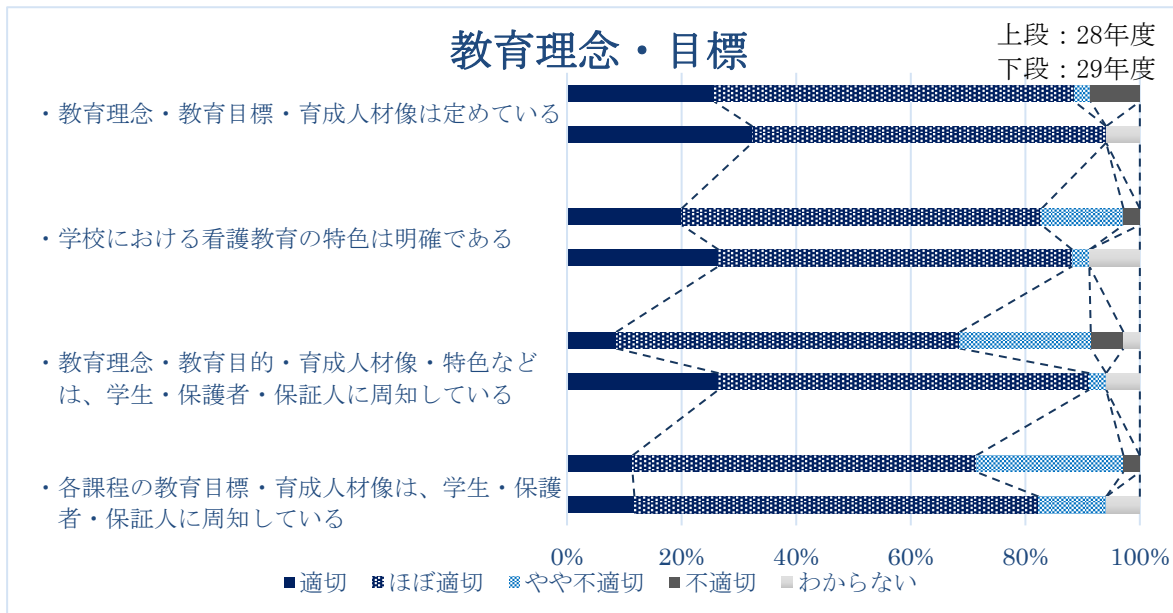
京都府医師会看護専門学校

平成29年度 自己点検・自己評価

I. 教育理念・教育目標・人材育成

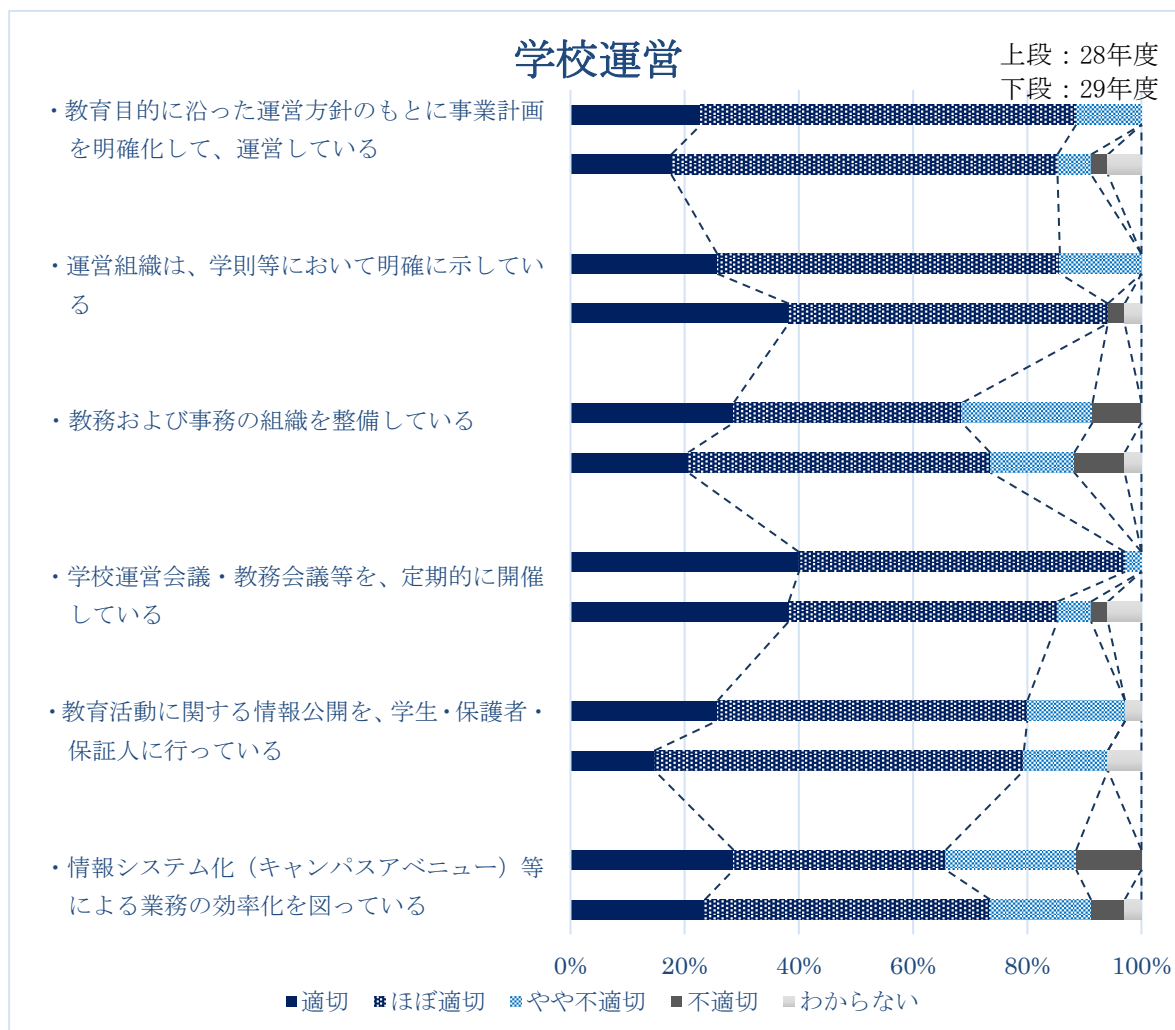
N=34

(1) 教育理念・目標



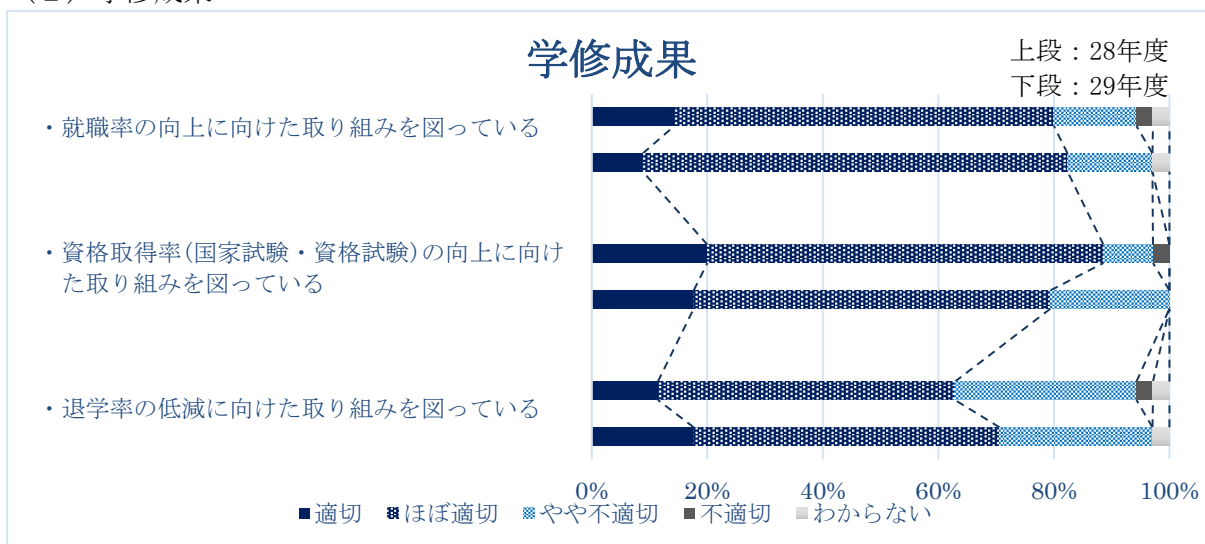
自己評価	外部評価
<p>「学校における看護教育の特色は明確である」は、「適切」「ほぼ適切」の回答が28年度に比較して若干高く成果が見られるが、「学校における看護教育の特色」の具体的な説明はなかなか難しい。助産学科の特色については、今年度の『学校案内』に明記することで、他校との違いを可視化しているが、他の課程でも同様に、『学校案内』で入学前から特色が前面に出る工夫が必要である。</p> <p>「各課程の教育目標・育成人材像は、学生・保護者・保証人に周知している」は、「適切」「ほぼ適切」の回答が前年度より高くなっており、「やや不適切」が低下している。学生には入学時や日々『学校生活ガイダンス』の説明をする機会が多いが、保護者に対しては、入学式や保証人会で周知する機会があるが、出席者が限られており、それ以外の方に周知してもらえようHPなど情報発信が必要である。</p>	

II 組織運営
 (1) 学校運営



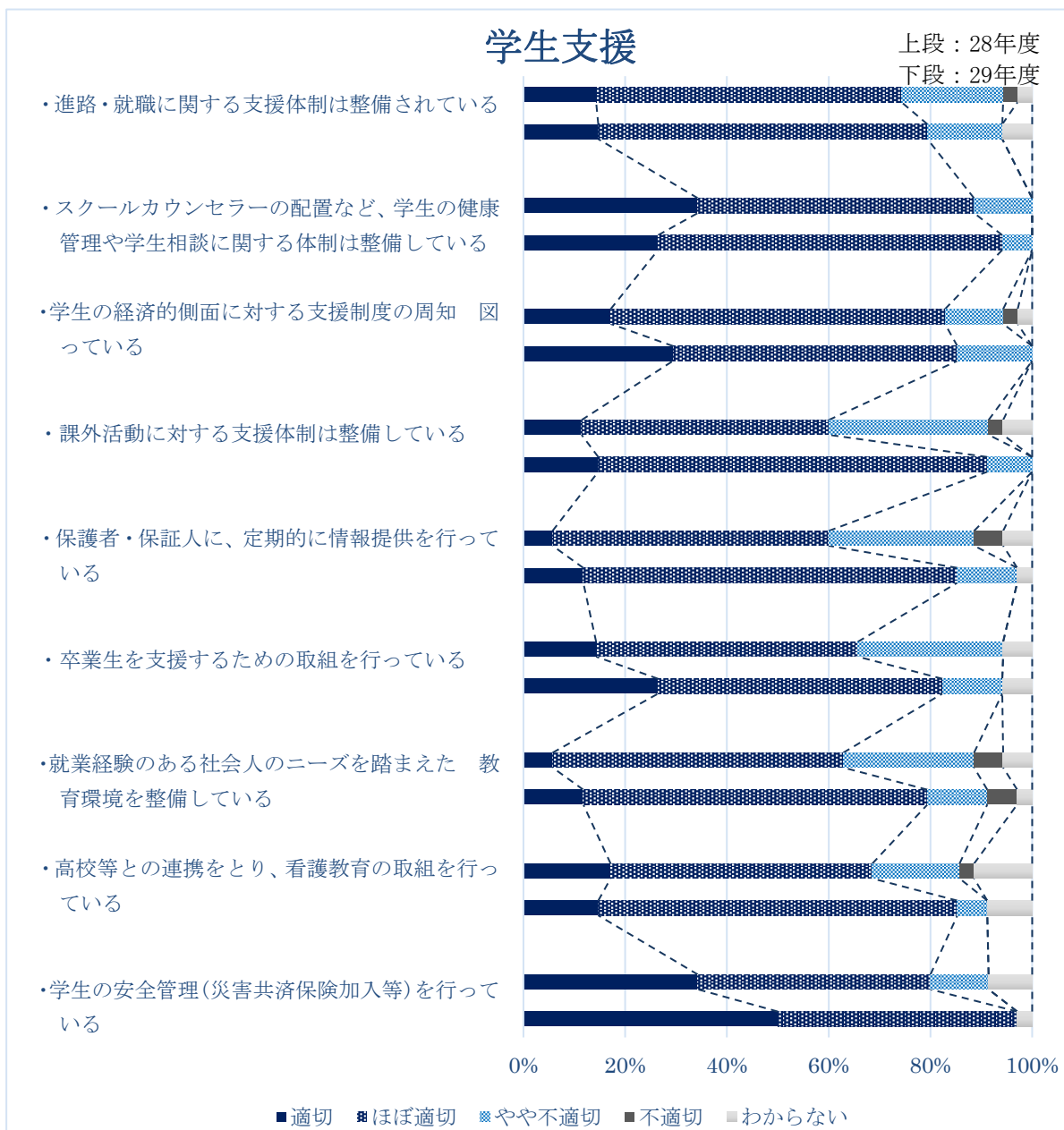
自己評価	外部評価
<p>「運営組織は、学則等において明確に示している」の項目も、昨年度に比較し改善している。教務会議で決定基準を常に学則に即して判断することを徹底し、教員全体が学則を意識する機会は増えている。また、入学時オリエンテーションで新入生に説明するだけでなく、在校生に説明する機会にも常に『学生ガイダンス』と照合しながら行うことで、学生全体にも学則を理解させることが出来る。</p> <p>教務会議や運営会議の定期的な開催は行われており、昨年よりも低い評価になっているが80%以上と高いレベルで推移している。今後も継続し、職員全体が問題を提起・検討し、その結果を実践し、学校運営に反映させていく必要がある。</p> <p>昨年度に比較すると、「情報システムによる業務の効率化や教務と事務の組織を整備している」については、「適切」「ほぼ適切」が70%以上を占め、「不適切」と評価した教員が減少し、改善傾向にある。成績や情報管理を一括管理し、システムを教務・事務と共有したことにより、教員のコンピューター技術も向上したものと考えられ、それにより正確で効率の良い業務改善ができています。</p>	

(2) 学修成果



自己評価	外部評価
<p>「就職率の向上に向けた取り組みを図っている」は、「適切」「ほぼ適切」は70%である。施設の奨学生である学生も多いため、実習病院への就職をはじめ、学生自身が将来像を描いて就職先の選択をするためのサポートをしている結果であろう。</p> <p>「資格取得率の向上に向けた取り組みを図っている」は、昨年度より「適切」「ほぼ適切」が10%弱低減している。学生の学習および学校生活におけるサポートは各学科、学校全体で朝学習や専門領域別の補講、外部模試など毎年工夫を凝らし行うとともに個別対応にも心がけている。しかし、カリキュラム以外のサポートが多重課題となる傾向もあり、学科によっては国家試験、資格試験合格率100%または全国平均を上回っている。国家試験出題傾向の変化への対応や、早期に国家試験、資格試験対策を実施すると共に外部模擬試験の結果を分析することや、教員全員が学生と学びを共有する姿勢を強化していく必要がある。</p> <p>昨年度に比べ、学校全体として「退学率の低減に向けた取り組みを図っている」は、「適切」「ほぼ適切」が増加している。退学の理由として、病気療養、経済的理由、家族関係など学習サポートでは回避できないものもある。また、自ら職業選択をせずに入学し学校生活や学習習慣の未定着によるものもある。中には、学業不振により教員が個別指導を重ねたが本人の意思で退学というものもある。これらには、個人面談やカウンセリング及び共通認識を持てる場を設け、検討を重ねている。しかしデリケートな問題では、教員全体での共通認識が得られない状況もあり、課題の多様性、困難性が、より深刻化の一因となっているようである。</p>	

(3) 学生支援



自己評価	外部評価
<p>全体的に前年度より、「適切」「ほぼ適切」の割合が高くなっている。</p> <p>「健康管理や学生相談に関する体制」「高校等との連携による看護教育の取り組み」「学生の安全管理」は90%以上が「適切」「ほぼ適切」との結果が得られている。安全管理については、災害保険の加入と適切な利用がされていること、健康管理については、入学時、年に一度の健康診断および感染症対策として感染予防への指導、注意喚起の強化の結果と考えられる。スクールカウンセラーの配置については、利用者が増加し、開室時間が十分とは言えないが、スクールカウンセラーとの連携により学生の精神的サポートはほぼ適切に行われていると推察される。</p> <p>「経済的側面に対する支援制度」については、学科により差がある。経済的支援を必要とする学生が多く、修学資金だけでは学業継続が困難となり退学する</p>	

学生がいることの現実が「やや不適切」との結果につながったと考えられる。入学時に、卒業までに必要と見込まれる臨地実習時の交通費や再試験料などの明細について、十分な説明など個別の支援がさらに必要であろう。

「社会人のニーズを踏まえた教育環境」についても、昨年度より「適切」「ほぼ適切」の割合が高くなっている。就業経験はあるが学習者としては看護の初学者であり、尊重した対応をしている結果であると思われる。今後も社会経験のある学生のニーズを掴み、専門職業人として必要な職業意識を高めていきたい。

カムバックスクール

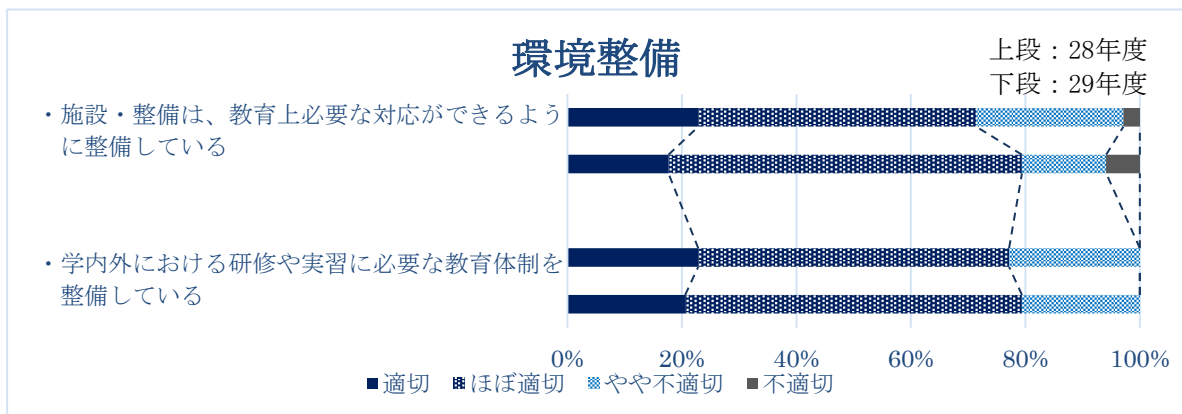
平成 29 年 8 月 4 日 (金) 13 : 30 ~ 15 : 00

講演テーマ : 「認定看護師への道 - 不妊症看護について -」

講師 : 佐々木亜衣 先生 醍醐渡辺クリニック

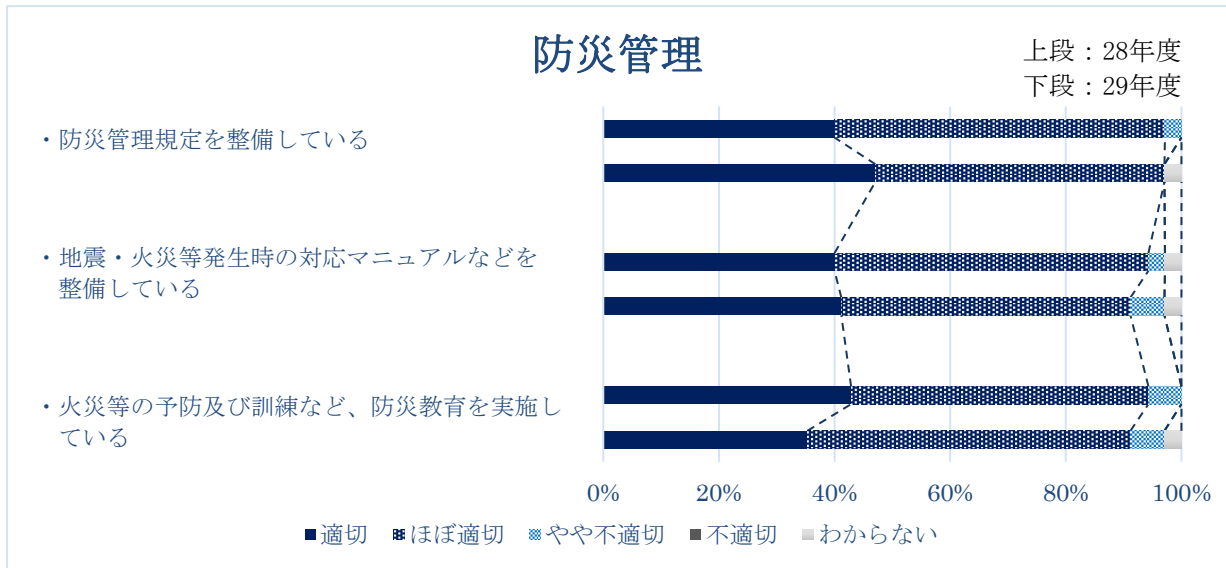
(4) 教育環境

ア 環境設備



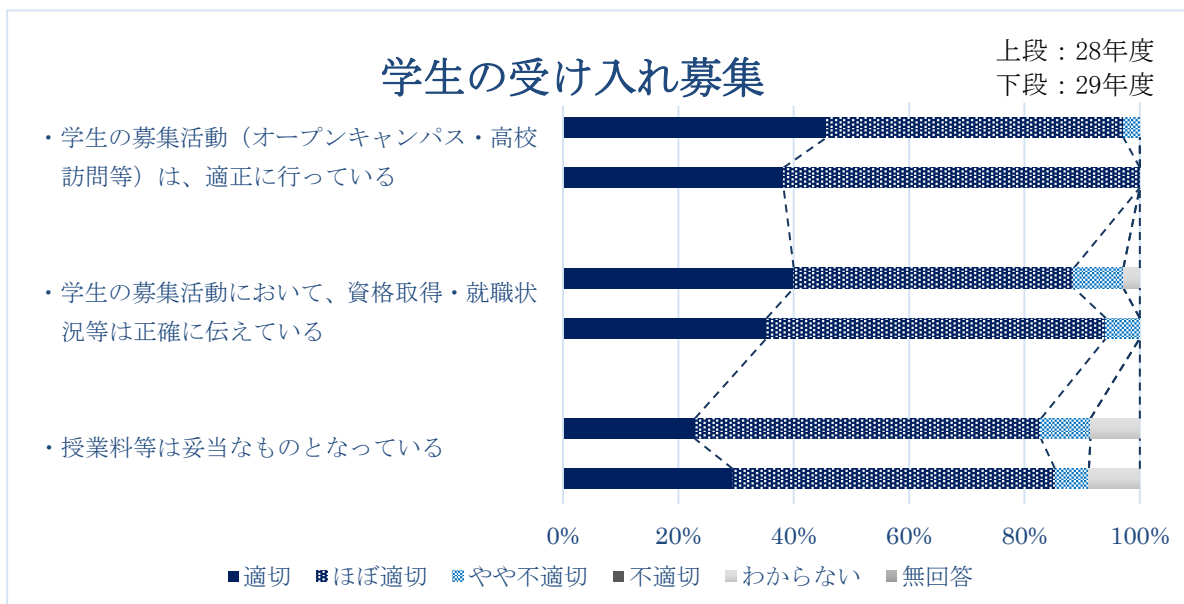
自己評価	外部評価
<p>学習環境として、教室以外にも学生が自主学習を行いやすいよう学習室を設置し平成 30 年度 4 月より開設している。またゴミが分別できるような大きなゴミ箱を設置し、学生は分別に協力している。机や椅子なども、定期的に (クリーンキャンペーンや学校祭の準備時) 破損がないか確認し、劣化の進んでいるものは適時交換しているが、十分ではない現状もある。</p> <p>平成 30 年度は PC などの環境も整備される予定であるため、学生が安全に学習できるよう、設備の不備がないように管理していきたい。</p>	

イ 防災管理



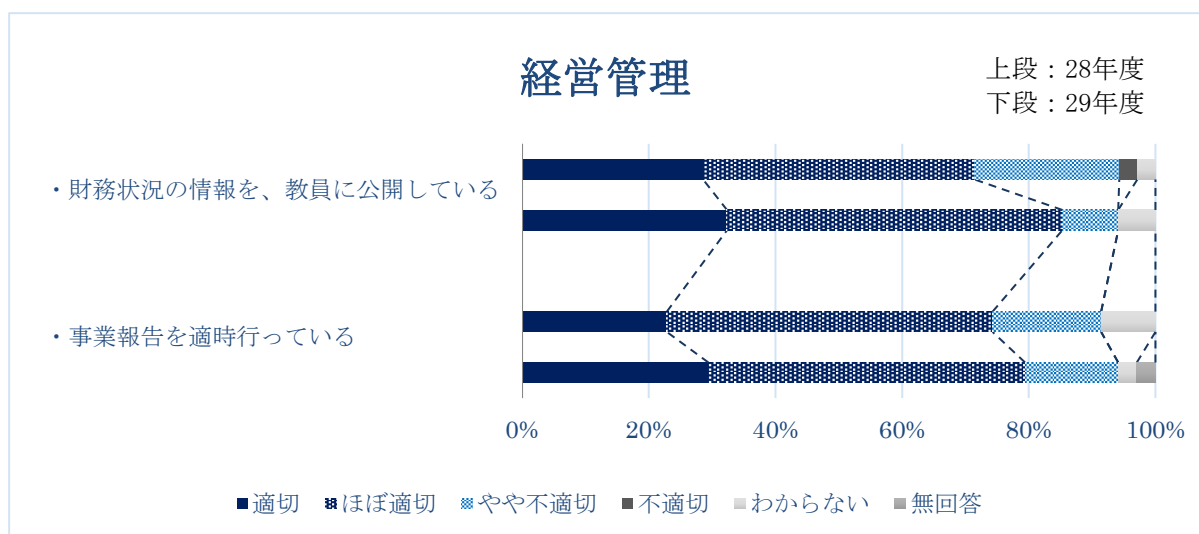
自己評価	外部評価
<p>地震時の対応については、火災訓練時に身の安全を守る方法のみしか出来ていない。対応マニュアルは存在するが、教職員が実際に利用できていない可能性があるため、合同会議などで適時報告していく必要がある。</p> <p>防災訓練は、年に一度、学生・教職員を含め、10月に実施している。火災時などの初期消火活動や、避難経路の確認などを実践することで、全員が意識できるようにしている。</p> <p>本校には、監視カメラの設置がある。不審者や不審物などの発見が早期にでき、学生の安全のため実施している。今後も、事故・事件が起きないように管理していく必要がある</p>	

(5) 学生受け入れ募集



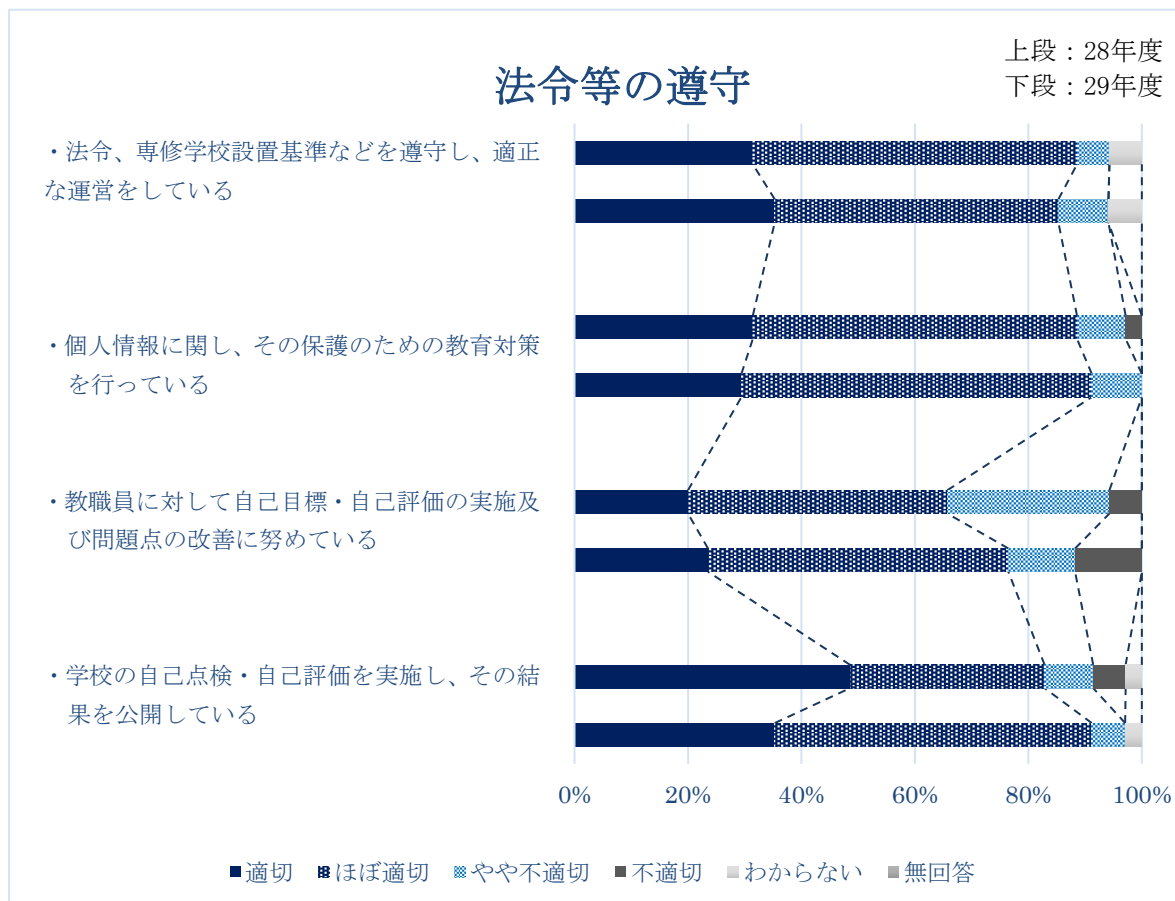
自己評価	外部評価
<p>授業料・学生の募集活動に関しては、90%近くが「適切」「ほぼ適切」としており、ほぼ妥当であると推察できる。資格取得・就職状況の伝達について学校案内やホームページへの掲載と4回のオープンキャンパスで説明していることで周知できている。また、教育顧問による高校訪問の結果の報告やオープンキャンパスに教員・ボランティア学生が参加をしているため認識が高く、全員の教員が「適切」「ほぼ適切」としている。それに加え、昨年度より広報媒体として活用し、学校情報やオープンキャンパスの情報を掲載により、本校を知ってもらい、学生募集に繋げたい。</p>	

(6) 経営管理
ア 財務



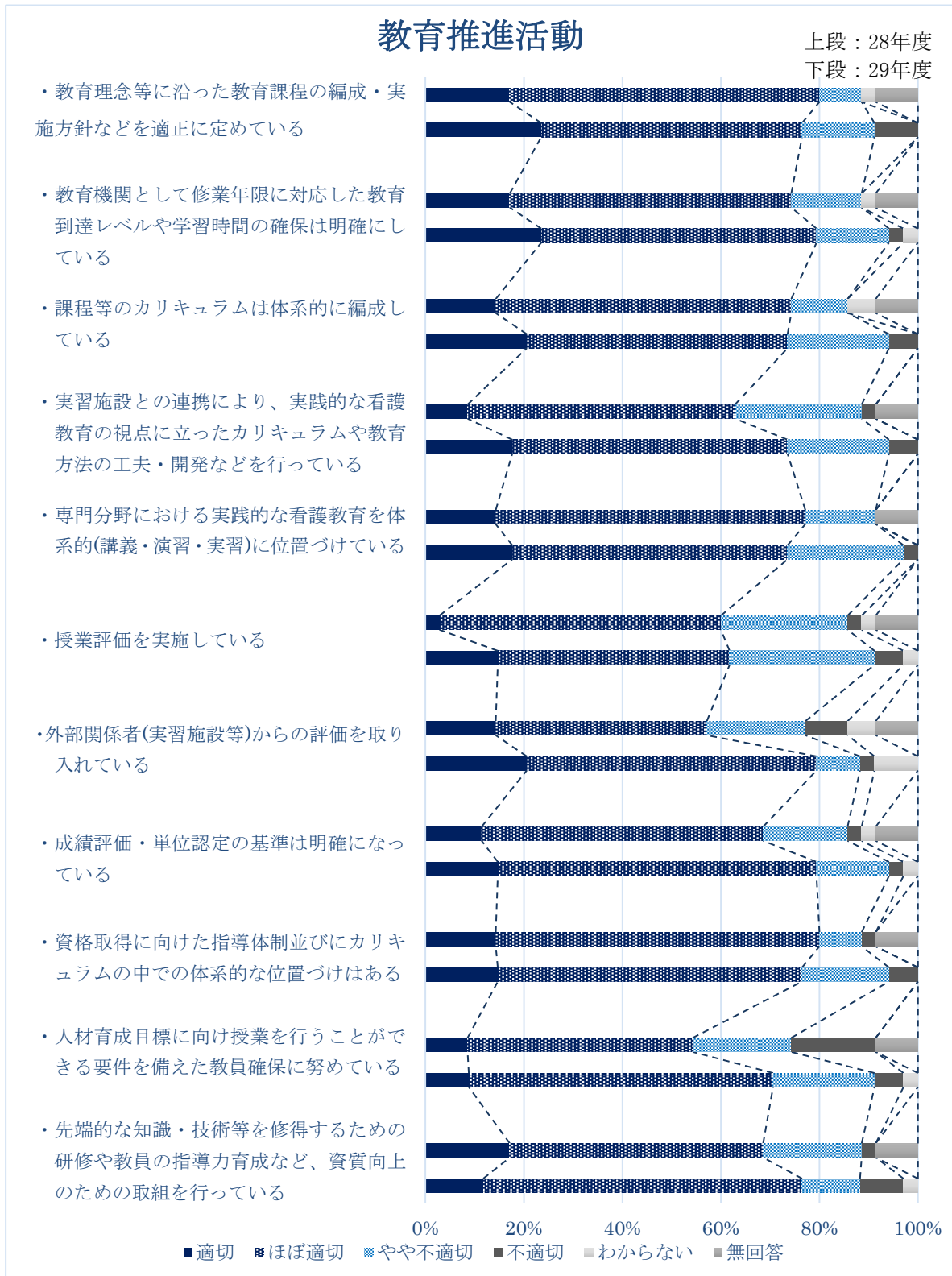
自己評価	外部評価
<p>財務状況の報告については、「適切」「ほぼ適切」が85%と昨年度より改善している。教員各自が消耗品の購入等計画的に取り組んだり、エコ活動として学生と共に取り組んでいる成果であると思われる。今年度財務状況については、合同会議でまだ伝達できていないため、継続して報告し周知していく必要がある。</p> <p>事業報告は約80%が「適切」「ほぼ適切」としており、合同会議でも必要事項の説明が適時行われており、継続していく必要がある。また会議に出席できなかった教員に対して、伝達できるような取り組みをする必要がある。</p>	

イ 法令遵守



自己評価	外部評価
<p>個人情報に関しては、比較的意識も高く、今後も継続して学生の認識を確認し十分な指導をしていくことが必要である。</p> <p>自己点検・自己評価の実施および結果の公開は定着し、「適切」「ほぼ適切」が80%以上を占めている。また今年度自己点検・自己評価の評価項目を具体的に明示したことにより、教員の理解が得られやすく改善されたと考える。しかし「教職員に対して自己目標・自己評価の実施及び問題点の改善に努めている」は、「不適切」10%台であり、改善策が具体的でないため、その方法について検討し実施していく必要がある。</p>	

Ⅲ. 教育活動
 (1) 教育推進活動



自己評価	外部評価
<p>授業評価では「適切」「ほぼ適切」が60%台と前年とほとんど変化はないが、「やや不適切」「不適切」が増え、無回答はなくなった。公開授業は時間割の都合もあるが、実施日が実習期間中に設定されることも多く、参加できる教員が限られることもあり実施の困難さもある。</p>	

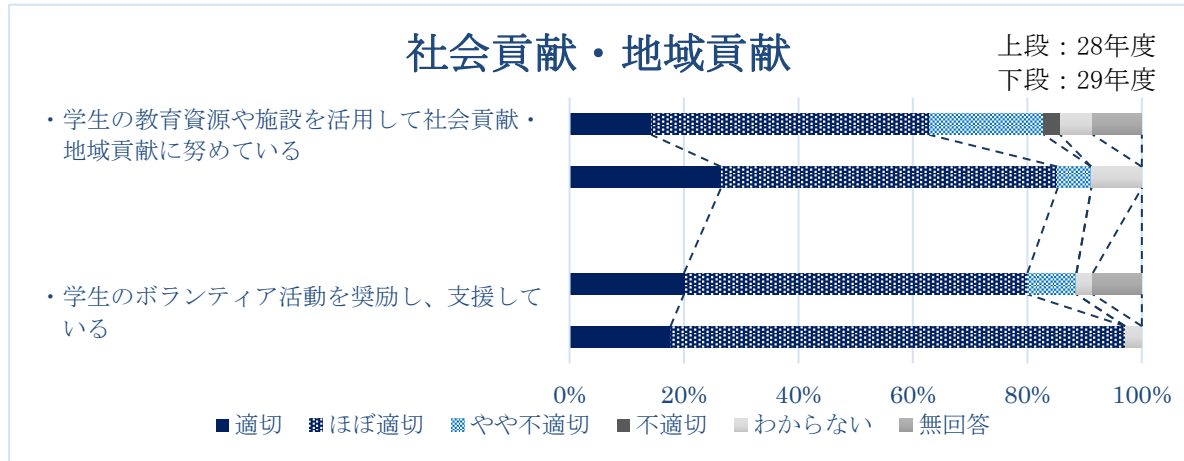
「外部関係者（実習施設など）からの評価を取り入れている」は「ほぼ適切」が20%増えている。これは、学校関係者評価委員会が行われている事が周知されてきている成果ではないかと考える。

カリキュラム、成績評価、単位認定に関しては、『学校生活ガイダンス』に記載されており、会議などでもガイダンスに基づき検討していることから、周知できていると考えられる。

「人材育成教育目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員確保に努めている」が「適切」「ほぼ適切」が50%台から70%台に増えている。しかし各課程においては、「やや不適切」「不適切」が多い項目でもあり、授業・演習、また実習施設の点在、教員の退職などマンパワーの不足は否めない。そのため多重業務となり、授業準備等余裕をもって行えないのも現状であろう。

自己点検・自己評価に関する説明は合同会議でも行われているが、「無回答」「わからない」の回答がどの項目にもある。特に新人教員に対して再周知できるよう機会を設けていく必要がある。

IV. 社会貢献・地域貢献・国際交流



自己評価	外部評価
<p>「学校の教育資源をつかっての社会・地域貢献」では、例年通り、地元の高校の校外実習を計4回の受け入れ、学校主催の看護職対象の研修会3回を開催している。他、京都府看護協会、京都府助産師会、関係学会等の役員、理事、講師等を引き受けそれぞれが任務を遂行している。昨年の教員評価では、約60%が「適切」「ほぼ適切」としていたが本年度は、約80%が肯定評価となった。学校の活動としての社会貢献、地域貢献が教員に周知されてきたものと推察される。</p> <p>本校では、「学生のボランティア活動を奨励し、支援」している。具体的には、日々の朝の立ち当番での挨拶運動、学校玄関前での花の整備、清掃活動などを通して地域の人々との交流に努めている。又、学校祭でのバザーや古本市は地域の方々にとって恒例行事の一つとなっている。その他、看護の日の行事に併せた活動、献血、夏祭り等のお手伝い、出張授業（性教育実践）など積極的に行っている。このような実績を踏まえ、90%が「適切」「ほぼ適切」と昨年よりも肯定評価の割合が高くなった。これは、教員がボランティアに関しての関心が高まったものと思われる。</p>	

【表彰】

厚生労働大臣表彰受賞 秋山寛子

【洛東高等学校健康福祉コース 実習受け入れ】

2年生→准看護科 2回

3年生→2年課程 2回

【洛東高等学校】

性教育 助産学科9期生 1回

【講師派遣】

京都府看護協会 実習指導者（看護師）講習会 平成29年10月～12月

看護論

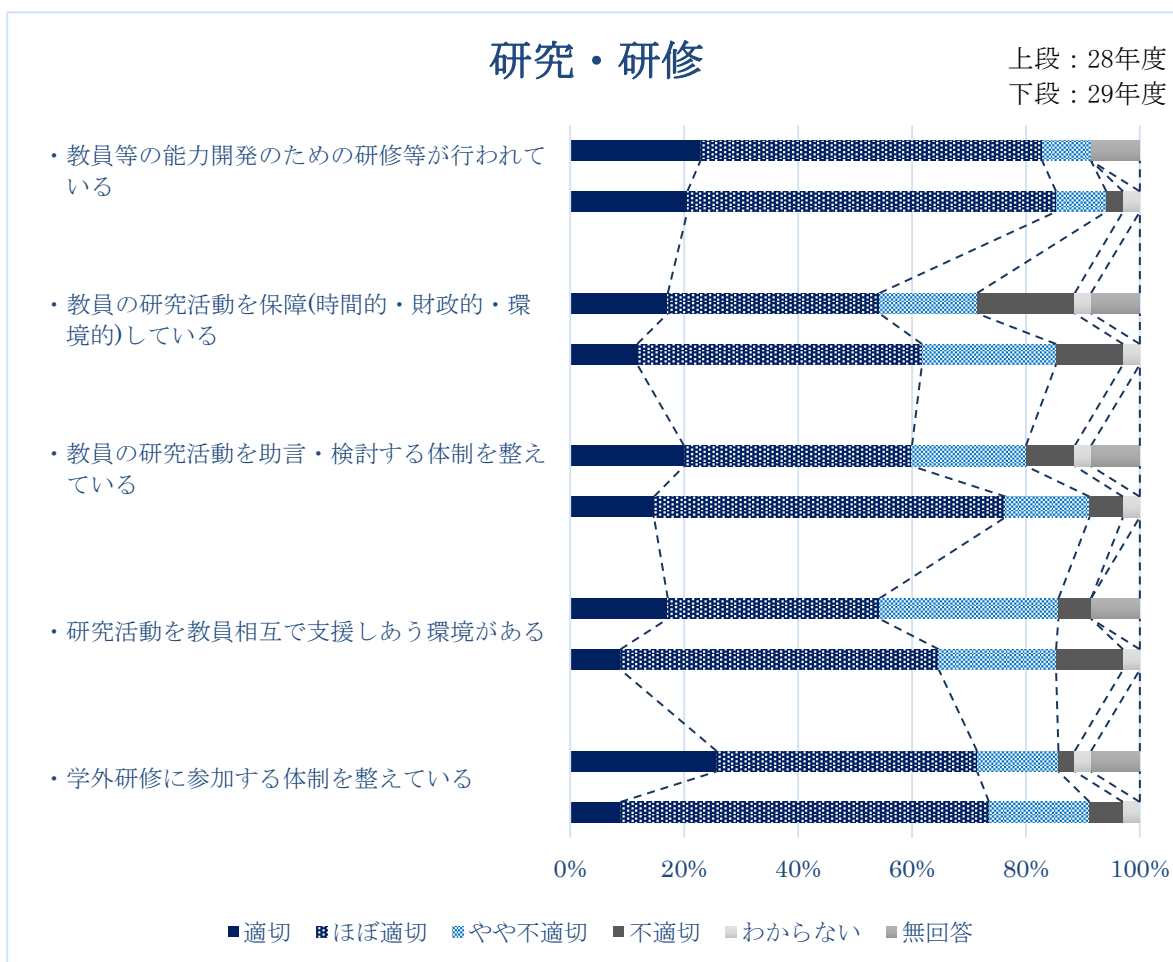
奥山幸子

2年課程の教育制度

淵見美佐江

	母性看護学臨地実習	秋山寛子
	実習指導の実際演習	秋山寛子
	実習指導の実際演習	神農節子
洛和学園 実習指導者講習会 看護教育課程 (2年課程)		奥山幸子
京都武田病院 特別講演 「医療従事者としての職業倫理について」		奥山幸子
【学会/職能関係】		
京都母性衛生学会理事・副編集委員長		秋山寛子
京都府助産師会教育委員		秋山寛子
京都府看護協会推薦委員委員		秋山寛子
京都府看護協会総会協力員		橋戸好美
京都府看護協会准看護師制度特別委員会		奥山幸子
山科保健センター運営協議会委員		奥山幸子
第15回関西看護学生看護研究大会実行委員長		奥山幸子

V. 研究・研修



自己評価	外部評価
<p>研究・研修に関する評価は昨年よりも肯定評価の割合が高くなっているものの、数年前までは、各項目の8割近くのもの「適切」「ほぼ適切」としていたことを考えると、年々、肯定評価の割合が低くなっている。中でも、研究活動に関する項目の評価が低く、「研究活動を保障(時間的・財政的・環境的)」「研究活動を教員相互で支援しあう環境」の2項目は、毎回評価が低い。次年度に向けて、教員相互で支援し合えるグルーピング、特定の教員に負担がかからないグルーピングや、研究活動の保障として意図的に時間を作り出す必要がある。研修に関しては、概ね適切と考えられる。</p>	

【学校内】

第1回研修会 「臨床との連携をとりながら、効果的な学生指導をめざして
～発達障害等の理解と具体的な支援のあり方～」

講師 文部科学省 学校経営スーパーバイザー 後野文雄 先生

第2回研修会 「教育的かかわり」の本質を探る一人を教え・育てるとはどういうことかー
講師 京都大学名誉教授 天野正輝 先生

新人教員研修 8月7日(月) 11名

公開授業 29年4月～30年3月 3名

シンポジウム 12月25日(月)9演題

研究発表 3月23日(金)9演題

長期研修報告会 3月23日(金)大阪府教員養成講習会 2名

【学校外】

1. 学会発表

日本精神科看護学京都支部看護研究発表会(京都)

「看護学生が『ゆらぎ』を認識する意義についての文献検討」

殿川賢太郎・森廣菜央・澤田恵里・橋本登喜子・奥山幸子

第48回日本看護学会-ヘルスプロモーション- (山口)

「児童虐待に対する看護学生の意識の変化」

奥山幸子・西雄浩子

第48回日本看護学会-看護管理- (北海道)

「准看護師の就業状況に関する実態調査」

中島すま子・元生早苗・豊田久美子・奥山幸子・須川裕子・南海津由子・小野典子・

前川博美・長谷川泰子・今西美津恵

「准看護師のキャリア開発支援に関する実態調査」

元生早苗・中島すま子・豊田久美子・奥山幸子・須川裕子・南海津由子・小野典子・

前川博美・長谷川泰子・今西美津恵

日本看護倫理学会第10回年次大会(大分)

「看護基礎教育における領域別臨地実習に関する倫理教育の現状と課題」

奥山幸子・市場千尋

2. 学会・研修会等参加

【長期研修】

大阪府専任教員養成講習会 4月~12月(大阪) 2名

【短期研修】

日本助産師会総会・学会 創立90周年記念式典・総会(東京) 1名

京都母性衛生学会学術講演会(京都) 1名

第48回日本看護学会-ヘルスプロモーション- (山口) 1名

日本看護倫理学会第10年次大会(大分) 1名

日本精神看護協会第27回京都支部看護研究発表会(京都) 4名

日本看護学会ヘルスプロモーション(山口) 1名

日本看護学校協議会近畿ブロック研修会(大阪) 1名

京都府看護協会 短期研修 21名

京都府助産師会 短期研修 3名

京都府助産師会・京都府看護協会：京都府の周産期災害対策 1名

京都府看護学校連絡協議会 3名

日本精神看護協会京都支部研修 2名

京都府立医科大学講演会 1名

京都母乳育児の会研修 2名

性教育指導セミナー全国大会(京都) 4名

日本看護協会出版会研修(京都) 2名

ナースセンター事業(京都) 1名

大阪府看護協会 フォローアップ研修(大阪) 1名

メディカ出版セミナー(大阪) 2名

日総研-研修(大阪) 1名

進研アドセミナー(大阪) 1名

さわ研究所教員セミナー(大阪) 2名

京都科学-研修(大阪) 1名

看護・助産教育支援フォーラム(大阪) 1名

大阪大学小児看護学春の研究会（大阪）1名
上智大学大阪サテライト研修 5月～6月：8回（大阪）1名
ニプロ研修（滋賀）4名

3. 論文・執筆等

奥山幸子・西雄浩子：児童虐待に対する看護学生の意識の学年比較. 日本看護学会ヘルスプロモーション学術集会. 第48回日本看護学会論文集ヘルスプロモーション. 59-62. 2017.

殿川賢太郎：第27回京都支部看護研究発表会に参加して. 日精看京都支部広報新聞. NO. 65 p5. 2018年2月